

# NTT ComのOpenID活用の取組みについて

2009年7月14日

NTTコミュニケーションズ株式会社

- マスターIDによる認証連携の取組み
- マスターIDの提供で見えてきた課題
- OpenIDを利用した認証連携
- NTTグループのID連携への展開

# マスターID導入(2003年)前の状況

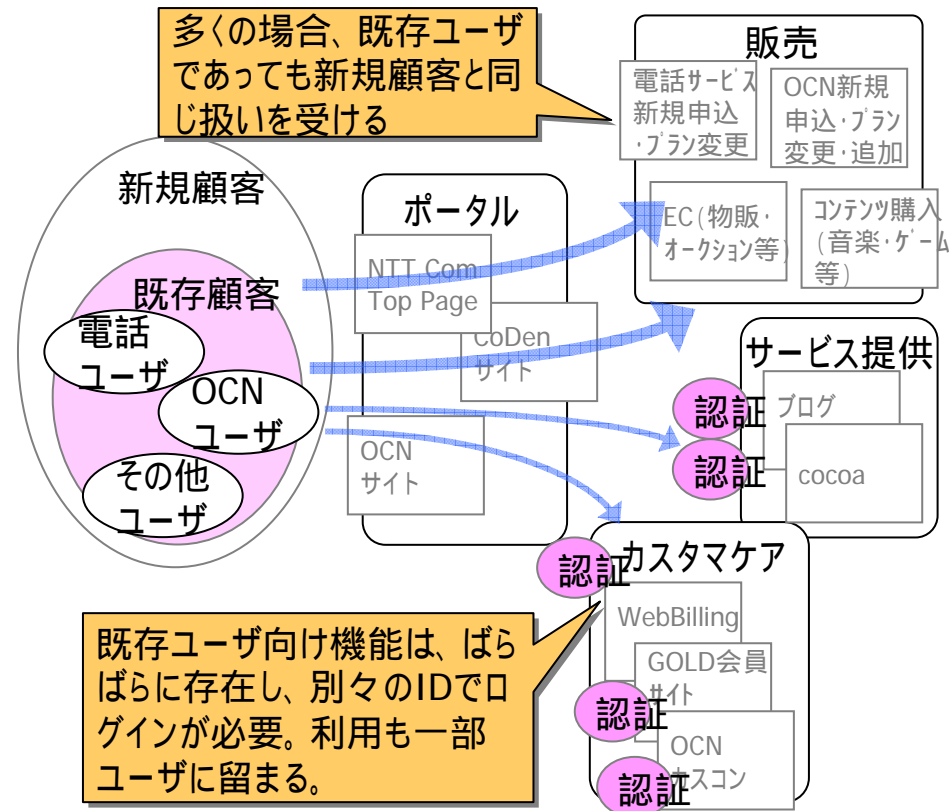
- 既存のお客様のカスタマケアを中心に自社内サイトのID連携
- 回線契約単位のIDがメイン

## エンドユーザーの課題

IDがバラバラ

好きなIDを選べない

ログインが面倒



# お客様視点でのマスターIDの狙い

REAL  
PERFORMANCE

## 便利その1: IDがひとつにまとまる!

これまでサービス毎に異なるID、パスワードが必要でしたが、マスターIDがあれば、たった1つのIDでどのサービスにもログイン可能



## 便利その2: 好きなIDを設定できる!

これまでお客様のIDは自動的に割り振られたものでしたが、マスターIDでは、お客様は好きなIDを取得することができます



## 便利その3: 各サービスに簡単ログイン

お客様専用の「マイページ」にログインし、他のサービスにログイン不要で移動できるようになります



「セキュアな認証」と「利用者の許可に基づく安全な属性情報活用」に  
フォーカスしたオープンなセキュリティテクノロジ基盤の確立

- 利用者にとって安心・安全で使いやすい高セキュリティ認証基盤
- webサービス技術による複数サービスのクイックな連携を促進

## アプローチ

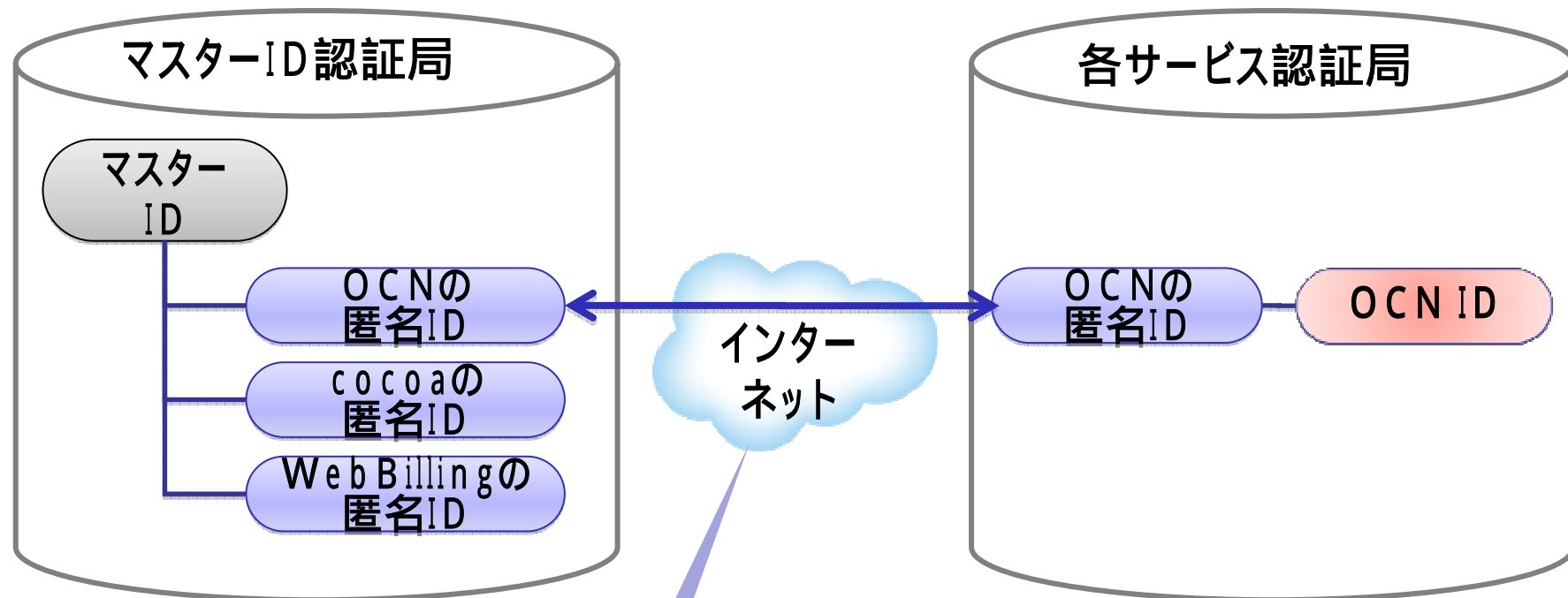
- 上記コンセプトに合致する技術として、Liberty Allianceを採用  
2003/11, Liberty Alliance適合試験に合格
- まずSSO(シングルサインオン)機能を実装し、  
マスターIDサービスに適用  
B2C(コンシューマ向け)商用適用サービスでは世界初



(2003年12月15日 サービス開始)

# マスターIDの仕組み

- マスターID認証局にてマスターIDと各サービスの匿名IDの紐付けを管理
- 各サービス認証局にて匿名IDとサービスIDの紐付けを管理
- 認証局間には匿名IDで情報交換



サービスのIDがインターネットを行き来することない



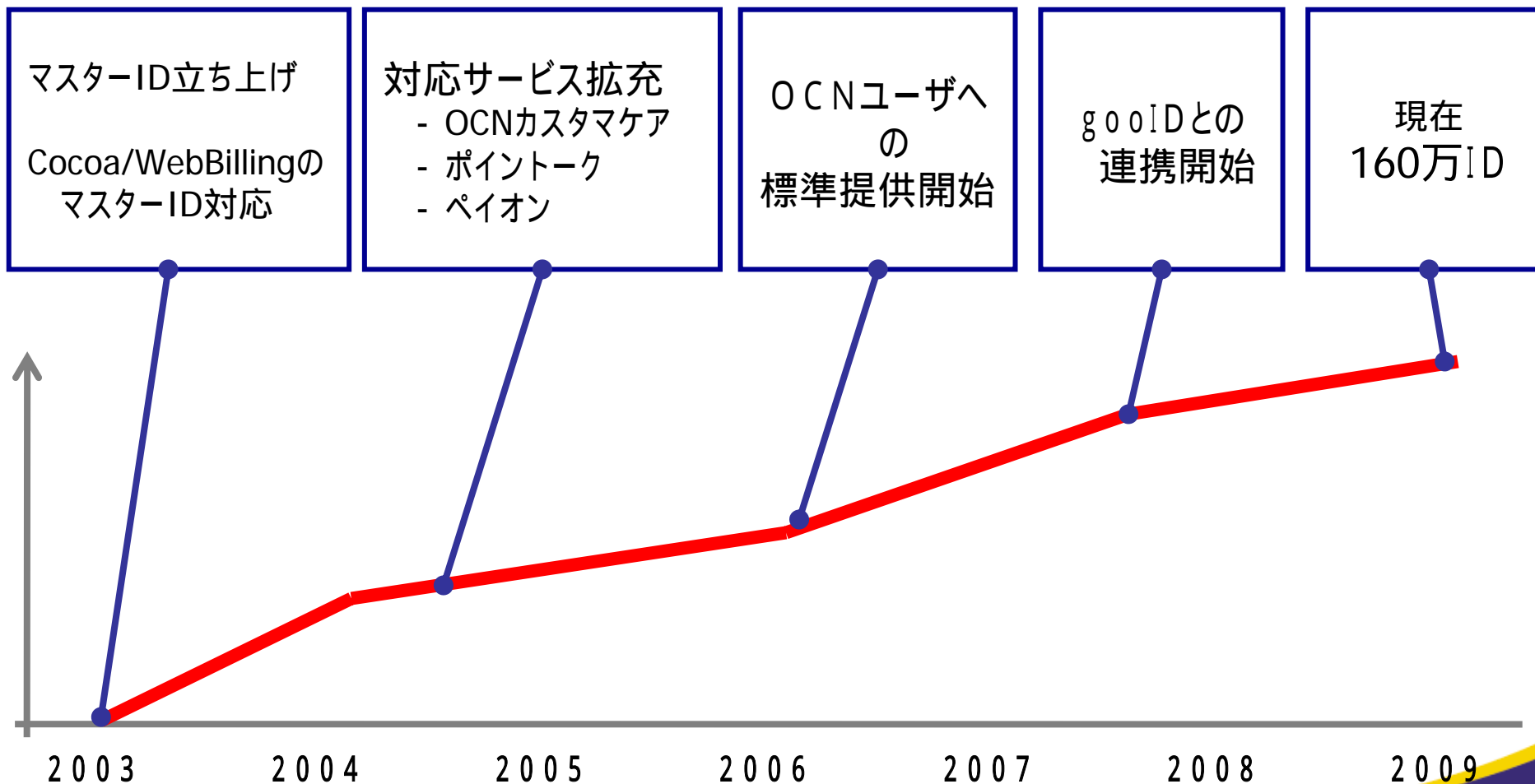
# マスターIDによる連携サービス

REAL  
PERFORMANCE



# マスターID利用者数の推移

各サイトへのログインを増加させ、gooとの相互送客を実現





- 契約者単位のIDから利用者単位のIDへ
- SP側対応のコスト負担
- IDを利用者が紐付ける利用障壁  
(SP側のサービスIDも事前取得が必要)
- 外部事業者との接続方式としてOpenIDが急速に拡大

## マスターIDでのログイン選択

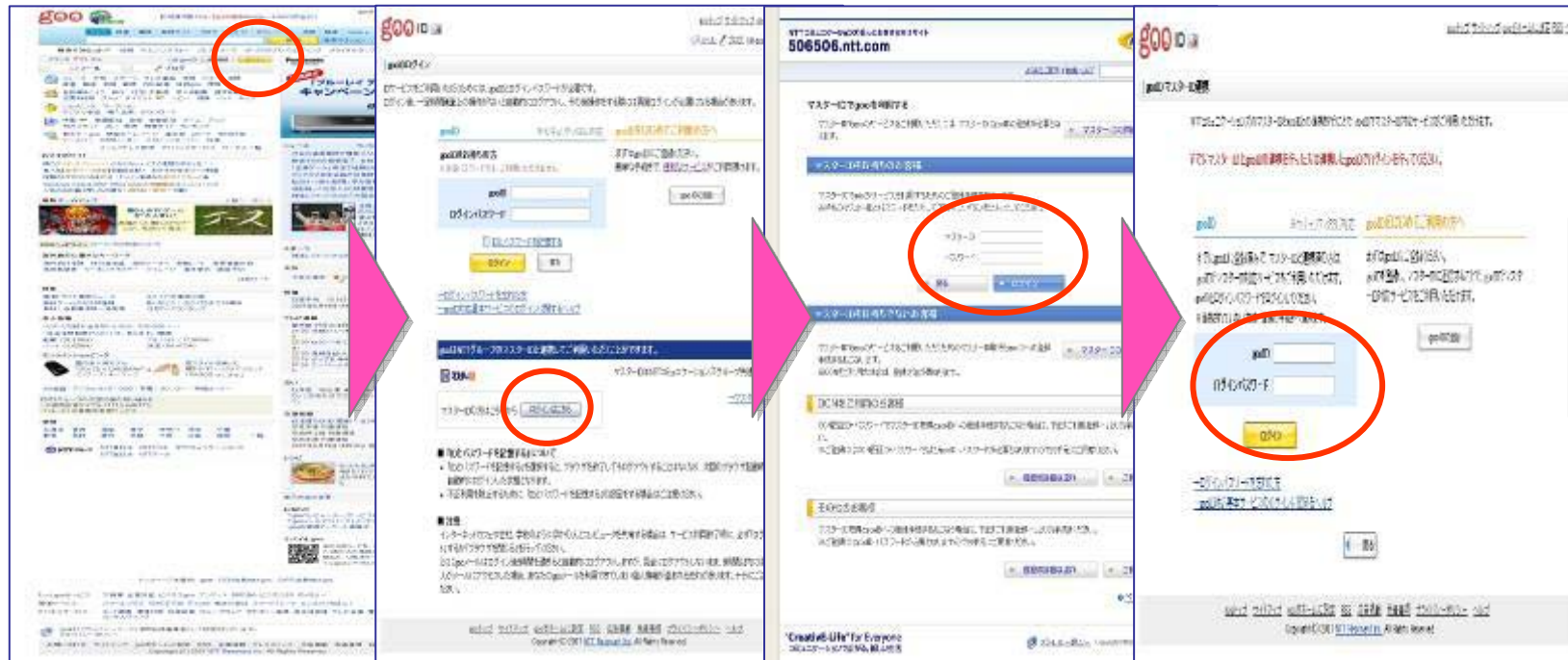
gooトップ画面から  
ログイン

マスターIDを入力するた  
めの選択ボタンを押す

マスターIDを入力

## マスターIDとgooIDとの連携作業

gooIDとマスターIDを連携させ  
る作業を行なう(gooIDの入力)



goo  
サービス  
利用

1回目だけ連携作業が必要

# マスターIDによるID-Federation

マスターID  
karuhir0  
さん、こんにちは

ログアウト

トップへ

対応サービスの登録/解除

プロフィールの確認/変更

パスワードの変更

マスターIDの廃止

ご利用ガイド

FAQ

### 対応サービスの登録/解除

マスターID対応サービスの登録状態を変更できます。  
(例: cocoaをマスターIDでログインする場合は「登録する」ボタンをクリックし、cocoaのIDとパスワードを入力してください)

対応サービス	マスターIDへの登録状態	登録/解除
OCN	登録されていません	登録する ▶
COCOA	登録されていません	登録する ▶
WebBilling Asahi	登録されていません	登録する ▶
ポイントークプログラム	登録されています	登録を解除する ▶
ご契約情報、 ご請求情報の確認	登録されていません	登録する ▶

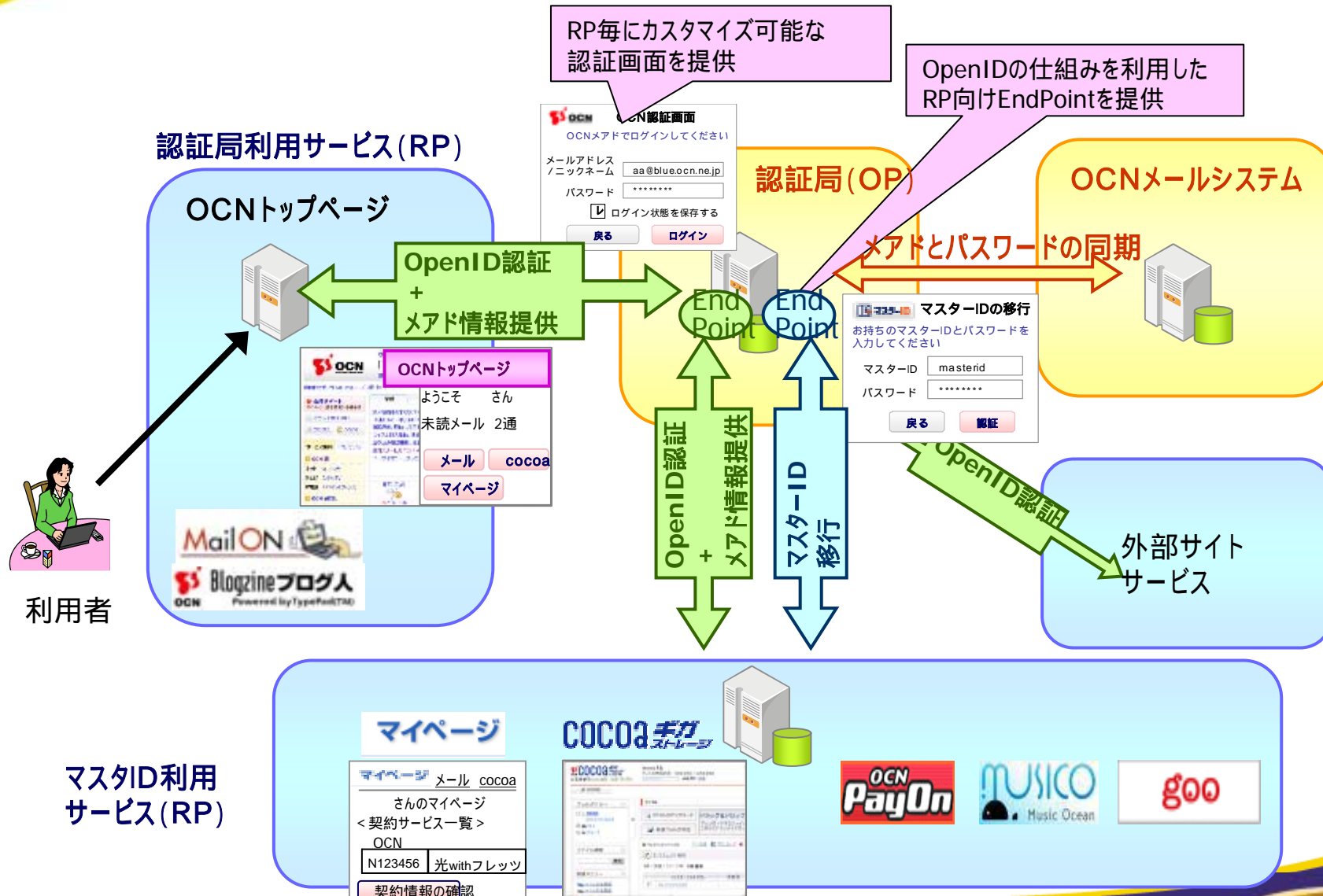
以下のサービスの連携/解除は、サービス画面で行ってください。  
サービス名をクリックすると、サービスページにリンクします。

対応サービス	マスターIDへの登録状態
CoDen 生活設計	登録されています
なつげ	登録されています

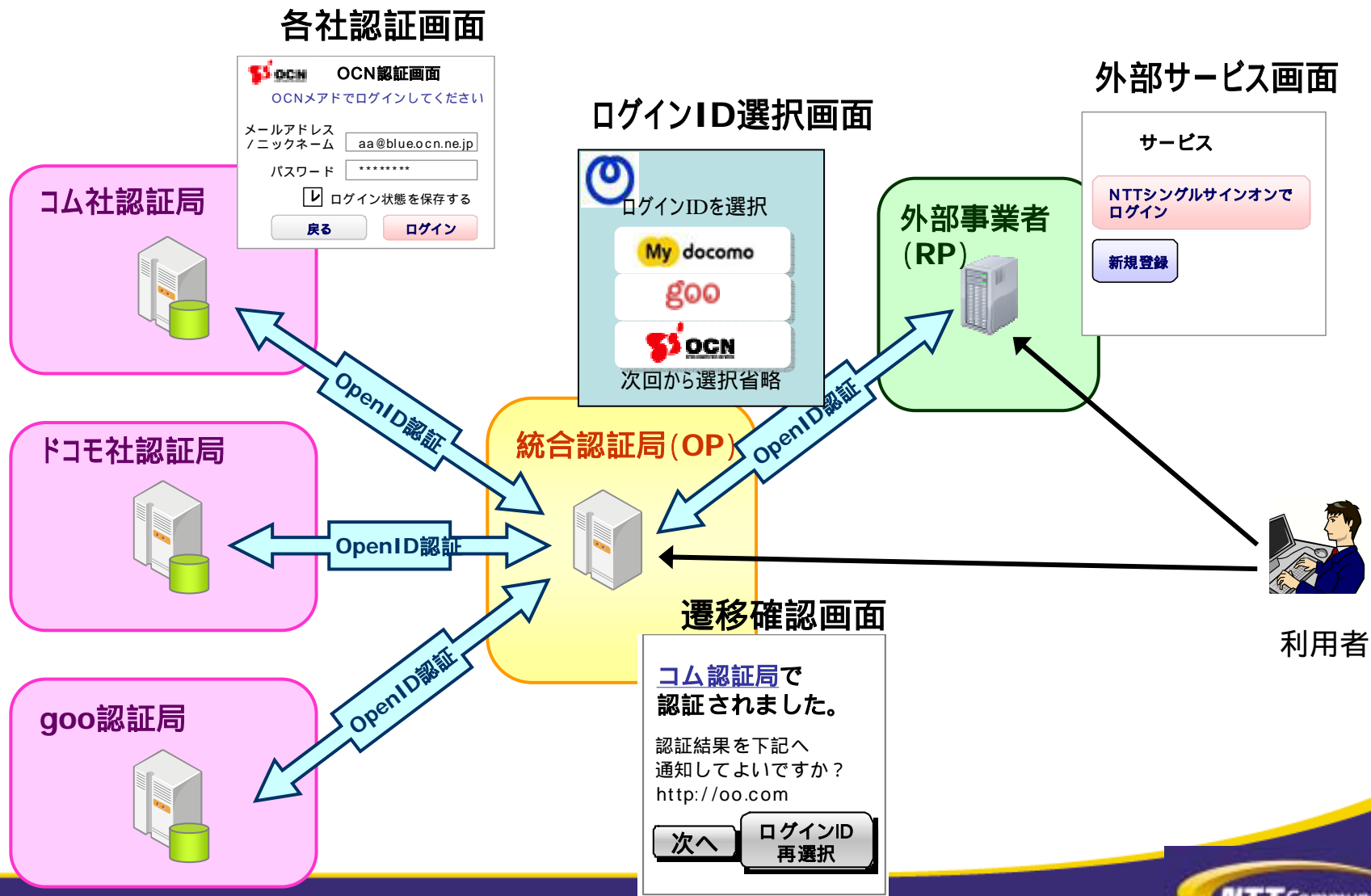
ページが表示されました

インターネット

# OpenIDを利用した連携システムへ



## NTTシングルサインオン(仮称)の概要



- 決済サービス(NTTペイメント(仮称))との連携
- 属性交換によるサービス利用上の利便性向上
- SAML2.0も含めた多様な接続の使い分け
- ケータイ上での連携サービス開発